

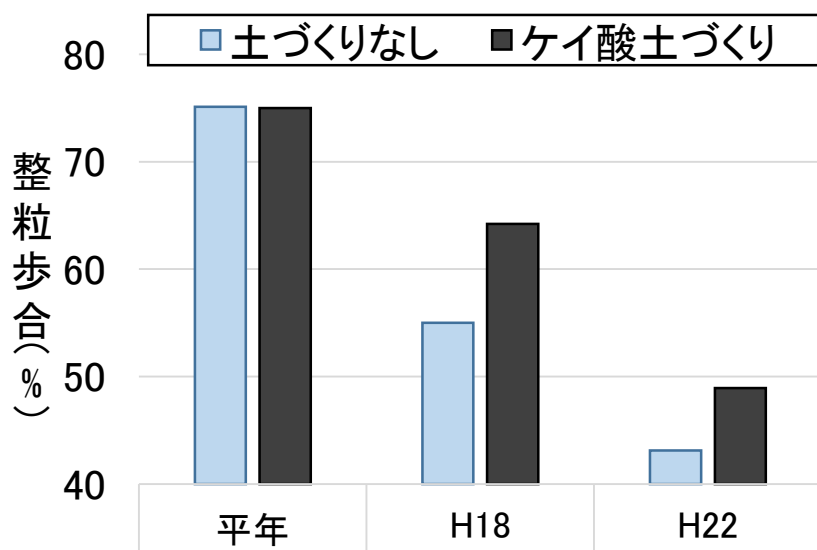
## おいしい魚沼米生産に向けて 春から土づくり！

### ～ケイ酸資材散布で丈夫な稲づくりを～

近年は異常気象の影響により、高温障害や後期栄養不足等により、収量や品質に大きな影響を及ぼしています。

異常気象による収量と品質の低下を防ぐためには、ケイ酸の施用などの土づくりが有効です。

土壌分析結果や水田の状況に合わせて、土づくり肥料を施用しましょう。



平成18年や平成22年の高温登熟年は、品質が大きく低下しましたが、ケイ酸で土づくりを行ったほ場では、品質が上回りました。

図 年次別土づくりの効果

新潟県農業総合研究所作物研究センターの資料を基に魚沼農業普及指導センターで作成

### 土づくり肥料の施用例 (下記の資材からいずれかを選択)

品名	散布量の目安 (kg/10a)	含まれている成分 (%)					
		リン酸	加里	ケイ酸	鉄	苦土	腐植酸
越後の輝き ソイル米スター	30~45kg	1	7	30		2	
ソイルキーパー Fe	100kg			13.5	約19	1.5	
魚沼ロマン ソイルキーパー	40~60kg	6	4	23		4	約3
魚沼ロマン アイアンスター	60~80kg	8		12	約9.5	5	約6

土づくり肥料を施用している方は、引き続き土づくりを継続しましょう。